

令和5年2月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和5年2月16日（木）13時25分～14時25分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関> SAY、読売新聞、山形新聞、YTS、YBC、河北新報、置賜日報

<市> 市長、秘書広報課長、観光課長

4 記者倶楽部からの質問事項

(1) 「新型コロナの感染法上の位置付け（2類→5類）への移行について」

政府の方針についての受け止め、考え方について改めてお聞かせください。

また、これに関連し「卒業式でのマスク着用について」が議論されています。

（質問を提出する段階では政府の方針は決定されていませんが）市としての見解、方針、および学校現場への周知についてお聞かせください。

(2) 「今冬の降雪・除雪について」

例年と比較して今冬の降雪状況および除雪の体制、除雪費等はどうなっているか、現状をお聞かせください。その際、除雪費の追加計上がある場合には見込みも含めてお知らせください。また、市民からの要望や苦情などがあれば、その具体的な内容および市の対応についてお聞かせください。

(3) 「大規模誘客イベントについて」

上杉雪灯籠まつりを終えたばかりですが、過去（コロナ前・コロナ禍）と比較して観客動員数、およびそれに対する市長の受け止めをお聞かせください。

また、「四季のまつり」に代表される大規模誘客イベントの必要性について、

「with コロナ」の考えを踏まえた所感をお聞かせください。

(4) 「上杉伯爵邸の塀が倒壊した事案について」

今月7日、上杉伯爵邸の塀が倒壊する事案が発生しました。事案の背景と市長の受け止めをお聞かせください。また、積雪も影響していると考えられるが、当該箇所を含めた市内の施設の緊急点検や対応等を行う予定はありますか。当該箇所の原因究明についての調査や修復の計画のメドがあればお聞かせください。

(5) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和4年度2月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

今回のご質問は4点ありました。

まず1点目は、「新型コロナの感染法上の位置付け（2類→5類）への移行について、政府の方針についての受け止め、考え方について改めてお聞かせください。また、これに関連し「卒業式でのマスク着用について」が議論されています。（質問を提出する段階では政府の方針は決定されていませんが）市としての見解、方針、および学校現場への周知についてお聞かせください。」という内容です。

新型コロナウイルスにより、丸3年に渡り、市民生活が重苦しい空気に包まれていたように感じています。今後2類から5類へ移行することで、少しは重苦しい空気が軽くなっていくのかなと思います。また、5類への移行で行動制限がなくなりますし、発熱外来中心であったものが一般の医療機関での受診が可能になるなど、市民が日常生活を取り戻す大きな転機になると思います。

また、マスク着用の考え方の見直しも示され、3月13日(月)以降、マスク着用は個人の判断に任せるという方向性になります。丸3年マスク着用の生活をしてきた中で、マスクを着用する、着用しないは個人の判断になりますが、どちらが正しい、正しくないということではありません。これまで、マスクをしていないことに対する偏見や中傷等を受けたケースもあったと思いますが、マスクを外さない人も出てきますので、逆の偏見や中傷等がないように、市民の皆さまに情報発信しながら周知していきたいと思います。

卒業式でのマスク着用について、国の方針を受け、県の方針も出ました。県教育委員会から、それぞれの市教育委員会に通知がきているようです。国が示した方向性を県教育委員会としても遵守するというので、卒業式においても、マスクを外しての卒業証書授与になると思います。なお、合唱などを行う際はマスク着用ということになっているようです。現段階では、国・県の方向性を遵守していかなければならないと思います。国・県の方向性は示されていますが、これでコロナウイルスがなくなる訳ではありません。先の庁内の会議において、本市における感染予防も含めてどう対応していくか、教育委員会を含む関係部署に、市民の皆さまへの周知について指示を出したところです。

2点目は、「今冬の降雪・除雪について、例年と比較して今冬の降雪状況および除雪の体制、除雪費等はどのようになっているか、現状をお聞かせください。その際、除雪費の追加計上がある場合には見込みも含めてお知らせください。また、市民からの要望や苦情などがあれば、その具体的な内容および市の対応についてお聞かせくださ

い。」という内容です。

現状については、過去5年の平均をとって比較していますが、累計の降雪量と10cm以上の降雪回数は20日間で例年並みとなっています。2月12日現在、降雪量は454cmで、過去5年の平均は437cmですので、比較すると103.8%となっています。また、積雪深は66cmで、過去5年の平均は81cmですので、比較すると81.4%となっています。

除雪費については、7億円が当初予算であります。1月末時点で6億円を除排雪費として支出していますので、足りなくなってくると思われま。この追加補正については、今後の天候状況や降雪量を踏まえて詳細を検討していきます。3月定例会の中で、追加補正になると思ひます。現在精査中ですので、金額はまだ出ておりません。

今冬の市民の皆さまからの問い合わせは、2月12日現在で約700件です。問い合わせの電話が最も多かったのは、降雪が続いた日で一日に50件近く問い合わせがあったと報告を受けました。内容としては、日中除雪や排雪の要望等の除排雪に関するものが22%と最も多く、次に、毎年問い合わせのある「勝手に雪を置いていかれた」等の雪押しに関するものが18%となっています。

3点目は、「大規模誘客イベントについて、上杉雪灯籠まつりを終えたばかりですが、過去（コロナ前・コロナ禍）と比較して観客動員数、およびそれに対する市長の受け止めをお聞かせください。また、「四季のまつり」に代表される大規模誘客イベントの必要性について、「with コロナ」の考えを踏まえた所感をお聞かせください。」という内容です。

観客動員数は、既に発表しているとおひ、2月10日(金)のプレオープン、11日(土・祝)・12日(日)の雪灯籠まつりを合わせて101,000人でした。90,000人程度を見込んでいましたが、11,000人程度多かったようです。

受け止めについてですが、11日(土・祝)の点灯式後は身動きが取れないほどの混雑状況でした。会場を色々まわる予定でしたが、なかなか容易に進めない状況でした。3年ぶりの開催で、多くの市民の皆さまはもとより、県内外の方、東南アジアをはじめとする外国の方も多く見受けられたということで、皆さま楽しみにされていたのかと思ひます。また、当日は天候にも恵まれたため、多くの方に来ていただけたのかと思ひます。JA下野さんからのイチゴ振る舞いや、観光大使の近野さんから提供していただいたサプライズ花火の打ち上げもありました。それらも含めて、市民の皆さまに喜んでいただけたと思ひます。また、皆さまの心にも光が灯ったのかなと思ひます。テント村の飲食店においても、ほぼ完売したという報告もありましたので、地域経済にもプラスの影響があり、大変嬉しく思ひます。

今回の雪灯籠まつりでは、皆さまマスクを着用していたと思ひます。こんなに多くの方に来ていただけたとは思ひませんでした。身動きが取れないほどでした。今後についてですが、このようなイベントは、やはり米沢の伝統・文化・歴史を継承する意味でも、開催することが重要だと思ひます。コロナの状況も踏まえて感染予防対策をしながら、よほどのことがない限り従来通り開催していきたくと思ひます。米沢市

版DMOも始まっていてインバウンドも期待されますので、しっかりと取り組んでいきます。

4点目は、「上杉伯爵邸の塀が倒壊した事案について、今月7日、上杉伯爵邸の塀が倒壊する事案が発生しました。事案の背景と市長の受け止めをお聞かせください。また、積雪も影響していると考えられるが、当該箇所を含めた市内の施設の緊急点検や対応等を行う予定はありますか。当該箇所の原因究明についての調査や修復の計画のメドがあればお聞かせください。」という内容です。

非常に残念だったというのが一番の思いです。雪灯籠まつりが間近に迫っていましたが、交通障害や市民の安全を考えて、何よりも早く撤去作業をしました。原因については精査中で、あくまで予測の段階でしか申し上げられませんが、雪の重さが原因で、南側の屋根は日が当たるため積雪量は少なく、北側のお堀側の屋根は積雪量が多かったと思われます。1月8日には全ての雪を取り除きましたが、その後、また降り積もったようです。今冬は雪が降ったり、雨が降ったり、暖かい日が続いたりしていました。それらも含めて、積雪が要因の一つだと思います。

また、塀を建築してから30年経過しています。壊れた部分を見てみると、基礎等の経年劣化も要因の一つだと思います。また、塀の隣には和庭もありますが、最初に和庭側の塀が倒れ、一体的に繋がっている塀が約40mに渡り倒壊したと思われます。これからしっかりと検証しながら原因究明していきます。

市内施設の緊急点検や対応ですが、防災危機管理課から各施設所管部署へ、雪下ろしの目安となる積雪荷重計算サイトの情報提供を行い、適切な雪下ろしの判断を促すとともに、各所管施設に対する維持管理の徹底を通知しました。

また、財政課から全部署に対して、市所有の施設内にある類似の塀の有無とその現状について、点検・報告を行うように通知しました。この結果を取りまとめて、危険性があると判断された箇所には必要な対応を図っていきます。

原因究明については、先ほど申し上げたとおり、今後の調査結果を踏まえて結論を出していきたいと思います。

この件は、産業建設常任委員会ならびに市政協議会で議会にも報告しました。この地域は、本市の景観計画において景観形成重点地区に位置付けられ、歴史・文化的景観資源の保全・活用、歴史や文化が薫る街並を形成するためにも、周辺の整備を進めていく必要があります。

現在、伯爵邸の入り口から座の文化伝承館までの西側の塀は残っています。また、座の文化伝承館から児童会館までの塀は以前崩れてそのままになっています。今後の課題として、残されている塀の状態を調査し、その塀の取り壊し等も含めて景観形成重点地区に見合うように、関係者と連携しどのように進めていくか結論を出していきたいと思います。事前にいただいた質問に対する回答は以上です。

○記者

質問の前に一点要望です。今後、回答に関する資料があれば、紙で準備していただ

きたいです。

○秘書広報課長

承知いたしました。

○記者

1点目の新型コロナ5類への移行について伺います。米沢市の方針としては、国の方針あるいは県の方針に準ずるということでよろしいですか。

○市長

国の方針を受けて県が方針を出していますので、市町村もそれにならわざるを得ないと思います。

○記者

3月13日(月)からマスク着用が個人の判断になるということは、世間でも議論になると思います。市長の考えをお聞かせください。

○記者

そのことでマスクをする人、しない人が出てきます。これまでマスクをしない人への偏見や中傷等がありました。今後は、マスクをしている人への偏見や中傷等がないようにしていかなければなりません。私自身は、当面マスクを着用すると思います。

○記者

市職員に対しても、個人の判断に任せるという通知ですか。

○市長

これから方向性を出す予定ですが、市民の皆さまと接触する窓口業務を行う職員に関しては、当面マスク着用をお願いせざるを得ないと思います。ただそれ以外の職員に関しては、個人の判断に任せるということで、強制はできないと思います。

○記者

卒業式に関する市教育委員会から各学校への通知は、県教育委員会の指針に従ってくださいという内容ですか。

○市長

今日までの事例を見ても、県教育委員会から通知があれば、市教育委員会としては従わざるを得ないと思います。ただ各学校長の判断もありますので、その判断も尊重したいと思います。特に、現在の中学3年生は3年間コロナ禍での生活だったので、最後は子どもたちの記念に残る、笑顔を分かち合えるような卒業式にしてほしいです。

○記者

保護者の人数制限に関しては、どのような指針ですか。

○市長

保護者の人数制限に関しては把握していませんが、マスクを着用しての参加であれば、人数制限がなくてもよいのではないかと思います。

○記者

2類から5類へ移行することで、社会行動の一時混乱があるかもしれません。行政としての考えをお聞かせください。

○市長

コロナ関連については、我々市町村は、国・県の方針に従ってきたという側面があります。国が2類から5類への移行を発表するのであれば、国民に分かるように説明していただきたいと思います。マスク着用が個人の自由になり、それが社会問題にならないように、まずは国が対応してほしいと思います。

○記者

2点目の除雪について伺います。市民からの押し雪に関する要望はやむなしというお考えですか。

○市長

ブルドーザーが出動すれば、間口には必ず雪が置かれてしまいます。それについて勝手に雪を置いていかれたと言われても困ってしまいます。本市では押雪軽減支援制度にも取り組み、なるべく配慮するようにしています。それでも苦情があったんだなと受け止めています。

○記者

苦情を軽減するために、オペレーターが努力している部分はありますか。また、市として関わっている部分はありますか。

○市長

押雪軽減支援制度を利用する世帯はオペレーターも把握していますし、なるべく雪を置かないように努力していると思います。家の前を見ていると、交差点等もかなり気を遣いながら除雪してくれていると感じます。それでも完璧にはいかないのが除雪です。今後、空き家が増えたり高齢者が増えたりしていく社会の中では、非常に厳しい問題だと思います。

○記者

空き家や高齢者が増えて除雪がままならないという状況は起こり得ると思います。少しずつ改善していくしかないと思いますが、長期的な部分での米沢市の除雪に関するビジョンはありますか。

○市長

地下水の保全などを考えて、道路での消雪は極力使用しないという方針を県が出していますので、今後、除雪が主流になっていくと思います。雪が置かれている空き家も見受けられますので、その対応は検討しなければなりません。除排雪はかなりの予算を必要とします。冬季間の市民の皆さまのコンセンサスを得なければ丁寧な除雪はできませんので、今後の大きな検討課題だと思います。

○記者

補正予算について金額は精査中とのことでしたが、見込みとしては補正が必要な状況ですか。

○市長

先ほど申し上げたとおり、7億円の予算のうち既に6億円を支出しており、その後雪灯籠まつり等でかなりの排雪も行っていますので、見込みとしては当然足りません。

ただ金額については、今後の降雪量や除排雪も含めて精査しなければなりません。昨年度は3回ほど補正しましたので、財政の見通しをしっかりとしながら、臨機応変に対応していきたいと思います。

○記者

2月12日時点での市民からの問い合わせが約700件とのことでしたが、例年に比べてどうですか。

○市長

例年より少ないです。

○記者

例年より少ない要因はなんですか。

○市長

降雪量が少ないことが一番の要因だと思います。また今年の雪は降っては消え、降っては消えの繰り返しでしたが、去年は雪が降りっぱなしでした。そのため、去年は排雪が追い付かず苦情が多かったと記憶しています。今年は、雨が降ったり気温が高かったりして雪がある程度消えたことも苦情が少ない一つの要因だと思います。

○記者

多い日で一日に50件の苦情があったとのことですが、業務の圧迫や受付方法の転換等について、市長の考えをお聞かせください。

○市長

50件が少ないという訳ではありませんが、以前は一日に100件以上の苦情がきたこともありましたが、降雪が多かったり道路幅が狭かったりすると苦情が多くなりますが、職員はそれに一生懸命対応しています。それぞれのコミセンを中心に、地域でどのような希望があるかを確認しておりますので、今後、コミセンを通しての対応も検討していく必要があると思います。

○記者

3点目の大規模誘客イベントについて伺います。先の話になりますが、4月末から5月初めに上杉まつりがあります。今年度は、甲冑の数を減らす等、規模を縮小していたと思います。最終的にはコロナ禍前の規模に戻すことが目標かと思いますが、新年度は、まつりの規模や有料棧敷席の数等も含めてどのように考えていますか。

○市長

今年度は、意図的に甲冑の数を減らした訳ではなく、継続してお願いしていた企業や学校からの参加が少なく、減らさざるを得なかったという背景があります。本市の伝統・歴史・文化を継承していくことが、四季のまつりの何よりも大きな課題ですので、今年度同様、新年度も平常開催したいと思います。

○記者

学校側が参加を見合わせたという背景があったとのことですが、過去の例に従ってぜひ参加してくださいと呼びかけるということですか。

○市長

はい、そうです。学生の皆さま、市民の皆さまの協力がなければ、上杉まつり、川中島合戦は開催できませんので、これまで取り組んできた日常の川中島合戦に近くなるようお願いしていかなければなりません。

○記者

雪灯籠まつりでの混雑について、境内に入っていく参道の通りと屋台が並んでいる通りがあり、屋台の通りから参道の通りに入っていくのが一苦勞でした。屋台に並んでいる人とぶつからずに境内に入っていくルート等も必要だと感じましたが、見えてきた今後の課題等がありますか。

○市長

混雑をどの程度防ぐかということが一番の課題だと思います。上杉神社が目的地であれば南北から分散して行くことができますが、屋台が並んでいるのは参道と交差する南北の通りだけです。伝国の杜脇の広場に竹灯りも設置されて、そこがメインで賑わっていました。別ルートの設置というのは難しいと思います。

○記者

屋台の場所は市が決めて配置しているのですか。

○市長

はい、実行委員会が決めて配置しています。

○記者

特に大きな問題なく開催できましたか。

○市長

特に大きな問題が起きたとは聞いていません。

○記者

100,000人を超える来場というのは、例年に比べてどうですか。

○市長

前回開催時の来場者が62,000人でしたので、40,000人程多かったようです。

○記者

来場者が増えたことについて、市長はどう感じていますか。

○市長

コロナからの解放感で気持ち的にほっとしたこと、また晴天だったことによる相乗効果で来場者が増えたのかと思います。米沢駅の駅長さんから、山形駅発の普通列車に乗り、米沢駅で下車して雪灯籠まつりに向かった方も多くいたという話も聞きました。市内だけでなく、周辺地域からも相当な来場があったのかと思います。

○記者

多いときは150,000人程来場した年もあったと記憶していますが。

○市長

正確な人数は覚えていませんが、そんな年もあったかもしれません。まだコロナ禍であることは間違いありませんので、それ以前はもっと多くの来場があったと思いま

す。

○記者

天候等も含めて、条件はよかったということですか。

○市長

はい、条件はよかったと思います。

○記者

4点目の上杉伯爵邸の塀の倒壊について伺います。倒壊した伯爵邸の塀というのは、和庭までの塀という理解でよろしいですか。

○市長

はい、倒壊したのはそこだけです。

○記者

和庭の壁等には影響はなかったですか。

○記者

和庭そのものの壁には影響はなかったと思います。

○記者

和庭そのものは国指定登録有形文化財のはずなので、そこに影響があるかないかで話が変わってくると思いますが。

○市長

倒壊した際に和庭の側面も確認しました。少し影響はあったようですが、建物そのものへの影響はなかったと思います。

○記者

市が所有している塀が壊れたのと、文化財の一部が破損したのでは話が変わってくると思うので、正確な調査が必要だと感じているのですが。

○市長

塀は文化財には該当しませんので、当然取り扱いは違ってきます。文化財の一部が破損したということであれば、国の担当の方と話をする必要があります。まだそこまでの話はしていないと思いますので、今後必要になればしっかりと対応していきます。

○記者

話を聞いていると、史跡に傷がついてしまったのではないかと感じてしまうのですが、市としては史跡に影響はなかったという結論なのではないでしょうか。それとも調査中ということなのではないでしょうか。

○市長

現在調査中です。これから全体を調査して結論を出していきます。

○記者

観光課からは、和庭に影響はないという話を聞きました。今の話だと変わったということになりますか。

○市長

建物そのものには影響はありませんが、塀が倒壊したことにより若干修繕が必要な

部分が出てきたということです。

○記者

その言い方だと、和庭そのものにも影響が出たと聞こえますが。

○市長

若干の影響は出たと思います。

○記者

その解釈が観光課と微妙に違うように聞こえるのですが。

○市長

自分で見て、剥がれた部分があったので、影響はあったと思います。

○記者

ぜひ調査結果の報告をお願いします。

○市長

調査して報告します。

○記者

現在、西側の塀は残っています。残せるものは残したいという気持ちはあると思いますが、全面改修等も含めて今後検討していくということですか。

○市長

それも含めて今後検討していきます。

○記者

不幸中の幸いで人的被害はなかったとはいえ、市が管理する塀が倒壊してしまったということを、市はどのように捉えていますか。

○市長

しっかりと管理はしていましたが、結果的に、積雪や経年劣化により市が管理する塀が倒壊してしまったことに対する責任はあると思います。

○記者

関係部署には、各所管施設の維持管理を今まで以上に徹底するように言明しているのですか。

○市長

はい。座の文化伝承館から児童会館までの塀は以前から壊れていましたが、修復せずに今日まで来たようです。一部だけ残っているというのも、全体を含めて大きな課題だと思います。

観光課長から、和庭に影響はあったのかについて改めてご説明します。

○観光課長

倒壊した塀と和庭の継ぎ目が重なっている部分がありますので、その修繕を行いました。

○記者

修繕は済んでいますか。

○観光課長

修繕は既に済んでおります。

○記者

国の史跡の部分にも影響はあったのですか。

○観光課長

継ぎ目の部分が重なっていて、そこに多少支障があったので修繕をしました。結果的には、影響があったと認めざるを得ないと思います。

○記者

文化財の修繕となると申請等が面倒な印象がありますが、申請等はせずに直せる範囲だったということですか。

○観光課長

はい。これまで経年劣化等で施設内の様々な修繕を行っています。それと同様の修繕ということで、その都度報告するものではありません。

○記者

修繕にかかった費用と日数を教えてください。

○観光課長

軽微な修繕でしたので、倒壊の翌日には修繕は済んでいます。費用については、まだ明細が届いておりませんが、2～3万円程度と聞いています。

○記者

今回の修繕も、国への報告は特にしないということですか。

○観光課長

はい、報告する予定はありません。

○記者

継ぎ目を塗装したということですか。

○観光課長

塗装をして、一部に板を張りました。

○記者

木の板を張ったのですか。

○観光課長

はい、そうです。

○記者

張り替えということですか。

○市長

似たような色の板を、欠けている部分に重ねて張りました。

○記者

塀の、今後の雪下ろしの頻度等は決まっていますか。

○観光課長

施設側とも協議をして、これまで50cm程度の積雪で雪下ろしを行っていたのですが、今後は20cm程度の積雪で雪下ろしをしようということになりました。機材も揃

えて施設側をお願いしたところです。

○記者

原因は究明段階とのことですが、原因がはっきりするまでは、塀の近くに人が入れないように規制するのも一つの手かと思います。規制等は考えていますか。

○観光課長

今回は雪の影響が大きいと考えられますので、雪下ろしの対策を取ることで、雪のない部分への影響なはいと判断し、規制はしないことにしています。ただ、全体の傾きや経年劣化等については慎重に調査していきます。

○記者

原因の大部分は積雪だとお考えですか。

○観光課長

はい、雪害的な要素が大きいと思います。

○記者

設計の段階でどのぐらいの重さまで耐えられるかは分かっていたか。

○観光課長

残っているのが当時の設計図だけなので、明確にその判断ができません。専門家の方にもお願いして検討しようと協議しているところです。

○記者

これまでは50cm積もったら雪下ろしをしていたということですか。

○観光課長

これまでの30年間での管理の仕方として、屋根全体におよそ50cm積もれば雪下ろしをしてきたという実績があります。今回は、南側は雪解けしていて、北側に片寄ってしまったという想定外の部分がありました。今後は、そういったことも想定しながら早めに雪下ろしをしていきます。

○記者

倒壊した当時は、どのぐらい積もっていたか分かりますか。

○観光課長

当時現場に行き実際に見たところ、北側が約50cm、南側が10～20cmぐらいの積雪でした。

○記者

市長は、実際に見て基礎が脆弱だとお話していましたが、それがかなり影響しているとお考えですか。

○市長

詳しいことは分かりませんが、実際に基礎の部分も浮き上がって倒れていたの、そのように申し上げました。

○記者

塀の前の用水路ですが、今のままでは危ない状態だと思います。何か対応する予定はありますか。

○観光課長

復旧に向けては、少し時間をいただきたいと思います。できる範囲で、景観も含めてどのように対応していくか、施設側と協議していきたいと思います。

○記者

その他について伺います。ふるさと納税制度の業者選定において寒河江市で贈収賄があり、県や他自治体とも取引のある会社ということでした。米沢市との取引はあったのか、また、現時点で取引をしている業者が基準を満たしているか調査等を行っているか教えてください。

○市長

基本的にふるさと納税の返礼品は、地域の中で産出されるものと決まっています。本市との取引は当然ありませんし、あってはならないと思います。カタログも出しておりますが、全て本市の企業ですので基準は満たしています。

○記者

今回の事件を受けての洗い直しはしていないということですか。

○市長

基準を満たしていないということは、その地域以外の業者が提供しているということです。先ほど申し上げたとおり、本市においてそれはありません。

○記者

このような事案について、市長の考えをお聞かせください。

○市長

以前、大阪府泉佐野市で、プリペイドカード等を返礼品で提供し問題になりました。返礼品は、地元産出ということが前提です。そこには信頼関係がありますし、厳しくなったのは返礼品の返礼割合を3割以下にするということで、本市においては厳守しています。今回、寒河江市で問題がありましたが、厳正に取り組む必要があります。一時期ふるさと納税関連で、なぜ地元で生産しているNECのノートパソコンが返礼品として認められないのか、どのような基準で判断しているのか、総務省あるいは県と議論した経過があったことを踏まえ、本市では責任を持って取り組んでいます。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和4年度2月の定例記者会見を終了いたします。